

下町河川 Tomorrow

東京都・江東内部河川流域連絡会の情報紙（会議録）

平成21年1月30日（金）

第34回（第5期第8回）江東内部河川流域連絡会を開催



第5期流域委員会委員

- ・「第34回（第5期第8回）江東内部河川流域連絡会」を、午後2時から4時30分頃まで、江戸川区小松川さくらホール集会室4にて開催しました。
- ・都民委員9名と墨田区、江東区、江戸川区、東京都江東治水事務所等の行政委員8名が参加しました。
- ・各委員から2年間を振り返っての意見や感想、江東内部河川の水面利用等意見交換を行いました。



第5期流域委員会に参加した意見や感想

◆都民委員 ◇行政委員

●水面利用・舟運に関して●

◆「川の駅伝」を行いたい。3区でボートチームを結成し、別々の箇所から出発して江東内部河川を巡る駅伝のような競技を行えば、水面利用も盛り上がると思う。そのような競技会のためにいろいろなイベントに出ながら、一年間トレーニングしていけば面白いと思う。出来ればスカイツリーが出来るころまでに実現したい。旧中川の東京都ボート協会艇庫予定地あたりに船着場を整備する。旧中川・さくら橋の江戸川区の艇庫付近を中継地として、横十間川、北十間川をまわり旧中川へ戻るルートを提案する。川の駅伝のイベントの際に、和船のデモンストレーション、ケーブルテレビの放映なども加われば、イベントとして盛り上がるだろう。

◆横十間川では杭が残っている。そこに練習中のボートが2隻入り込んでしまい、レスキュー隊が出動してもらった。杭などボート活動に危険であり。河川の改修はまだ先だそうだが、出来るところから改善して欲しい。

◆舟運は環境にやさしい。江東内部河川はそのような意味では非常に利用価値がある。しかし、今後公園的利用が進むと舟運との利用調整が問題になると思う。河川の管理方法や管理主体、誰がどのような権限をもって管理や運営をしているのかということ整理して流域連絡会の最初にお話しただければと思う。

◆和船の会が設立されてから15年間になる。この間、川の景観がよくなってきた。こういう良い河川景観の中での和船の活用ということもある。また、技術や文化の伝承の上からも重要である。

◇江戸川区で新川を「塩の道」ということで整備している。江東内部河川の「塩の道」についても観光という視点から交流を図っていきたい。

◇河川の利用についても区界となっているので、単独の行政だけではなく、三区や東京都、住民の方々と議論してよりよい川の水面利用を考えていきたい。

●川からまちを見る、川とまちづくり、イベントに関して●

◆川から陸を見る、川から都市を見るという機会を通じて、護岸の整備のしかたなど、いろいろ知ることが出来た。都民はそういうことを知りたいと思う。川からまちを見るというようなツアーを料金を徴収しても良いと思うから、都や区でも実施していくと良いと思う。私自身の経験からも、川に人が集まれば川への関心が高まっていくと思う。

◆連合町会には緑推進部会がある。これらの人たちにも一度船に乗って川から陸をみることを体験してもらおうと良い。今後の住民への河川事業のPRについてプラスになる。

◇江東区に新たな基本構想ができた。江東区の将来像として一番目に目指したいことが水と緑豊かな地球環境にやさしい街である。緑のネットワーク、風の道、エコロジカルネットワークをつくっていききたい、ということ提案している。それに向かって努力していきたい。

◆灯籠流しの行事も10年を迎えた。旧中川の上流部の整備がされれば、上流部の墨田区の町会とも連携して灯籠流しが出来るだろうと思う。

◇東京都公園協会でも流域連絡会のご意見を聞いて、江東内部河川の賑わい創出に向けて都や

区と協力しながら取り組んでいきたいと強く思った。

◇今後も素晴らしい水辺をみんなが歩けるようにさらに良くなれば良い。また、川から街を見ることをもっと地元の人に経験させたいという、貴重な意見を伺った。大勢を乗せられる船はないが、そのような機会が出来るように微力をつくしたい。

◇河川が整備されると、人が集まり、イベントが開かれる。これが定着してきて、ある意味、文化の発信となっている。このような利用という面はこれからもっと大事になるので、皆さんの意見を聞きながら引き続き行っていきたい。

●災害に関して●

◆堤防決壊による水害被害によるハザードマップも出来てきている。災害に関して都民が理解を深められるよう、周知していくことが重要だ。

◆川の橋詰めは防災時の視点で重要になるだろう。また、防災という考え方も減災という形で切り口は変わっていくと思う。

◇行政の役割としてはやはり治水は重要だ。来年度はハザードマップをつくることになった。

●水質に関して●

◆ヘドロの浚渫等、経費をなるべくかけずに水質を良くする方法をいろいろと試しながら検討して行ってほしい。

◆横十間川では過去にダイオキシンの残留物が河床にあった。その後対策をとられたが、その後の経過について川の利用者が分かるようになると良い。利用者が安心できる環境にしてほしい。

◇この地域の下水道は合流式下水道であるが、降雨初期の汚れた下水を貯留する施設の整備等、改善対策を実施し、河川をきれいにする努力を続けている。

●河川清掃・ボランティア活動等に関して●

◆「川の守り隊」を行いたい。川の清掃を月1回行っているが、清掃後にも捨てられるゴミがありきれいにならない。それでも続けていくしかないと思っている。清掃活動している人がいることをアピールしていくこともいろいろな人と相談して行っていかなければならないかと考えている。

◆川が整備されても、その後のケアをちゃんとしてくれるのはその沿川に住む住民だと思う。流域連絡会でいろいろと意見が出たが、それらを地元を持ち帰って住民に話をし、地域に反映させていくのは出席している我々の責任だと常々思っている旧中川の清掃活動は、町会と近隣の小中学校の児童・生徒らが連携して実施している。

●維持管理に関して●

◇江戸川区では、河川の維持管理を充実させるため、区の外郭団体、財団法人環境促進事業団に全て維持管理を委託することになった。整備と維持管理の業務を分割することで、より環境整備に努めていきたい。また、利用しやすい川づくりに努めていきたい。

●今後の流域連絡会に関して●

◆2度にわたる現地見学会は、江東内部河川への理解を深めることができた。今後も機会ある毎にやっていただきたい。

●その他●

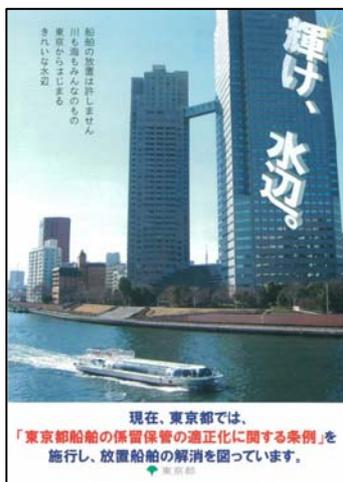
◆川に魚をもどすことと、護岸ペイントを私の最大の課題として、何かの機会にやっていきたいと考えている。

◇江東内部河川は昔の惨状と比べると本当に良くなった。地域内にある河川の水位を一斉に下げた事例は国外ではほとんど例がない。また、水質が悪くならないように隅田川から水を取り入れ、3日間で入れ替えている。これだけの工夫をして、ドラスティックに変わった河川は東京でも一番だと思う。

船舶の係留保管の適正化について

- ・前回の会議時に、豎川や小名木川にプレジャーボートが停泊しているという話題があったので、東京都の現在の船舶の係留保管についての考え方をお知らせしたい。
- ・東京都では、河川や港湾の放置船舶の解消するため、「東京都船舶の係留保管の適正化に関する条例」を平成14年につくった。条例のポイントは、係留保管施設の整備と放置船舶の規制である。東京都の河川は、「適正化区域」「重点適正化区域」を順次指定してきている。何等かのうちには、江東内部河川も係留保管施設を整備し、条例をかけて適正化事業を行っていく予定である。

チラシ



適正化区域・重点適正化区域指定図



河川管理の体系について

東京都には、次のような体系により、127の河川（総延長約890km）がある。

法定河川	一級河川	・大臣直轄管理 ・知事管理	・区管理	
	二級河川	・知事管理 (神奈川県管理含む)	・区管理	
	準用河川		・区市町村長管理	
法定外河川	普通河川	・知事が管理	・区管理	・多摩部については機能管理は市町村
	23区内の普通河川		・区管理	

第5期2年間の活動記録

第5期、2カ年、計8回の流域連絡会の概要は次の通りである。

回数	開催日	場所	概要
第1回 (第27回)	平成19年 8月29日	東京都第五建設事務所・江東治水事務所 1階会議室	各委員の自己紹介と座長の選出し、連絡会設置要綱等について説明した後、事務局及び行政委員から江東内部河川の整備事業の情報提供があり、意見交換を行った。
第2回 (第28回)	平成19年 10月25日	墨田区役所	【現地視察】 隅田川・両国船着場より乗船、隅田川、小名木川、扇橋閘門、旧中川、荒川ロックゲート、荒川を船から現地視察し、墨田区庁舎前防災船着場にて下船し、感想などについて意見交換を行った。
第3回 (第29回)	平成19年 12月20日	江東区文化センター	行政委員等から、江東内部河川の水質、下水道合流改善、扇橋閘門の休日試行、荒川・隅田川のスーパー堤防について報告があった。都民委員から、「水面から街を見直し世界にチャレンジ」の報告があり、意見交換を行った。
第4回 (第30回)	平成20年 1月31日	江戸川区小松区民館	水災フォーラム開催に関連して災害に関する事項、河川情報案内板、護岸のペイントについて意見交換を行った。河川視察のアンケートを行った。
第5回 (第31回)	平成20年 6月6日	江東区スポーツ会館	【現地視察】 北十間川・横十間川の現地視察（新タワー建設地＝ビル屋上より視察、北十間川の緑化整備、横十間川の艇庫や木製遊歩道等）を行い、その後、感想及び地域防災計画、震災対策型自販機等について意見交換を行った。
第6回 (第32回)	平成20年 8月27日	墨田区役所	前回の視察時に話題となったこと、高水敷遊歩道の整備と自転車利用、多自然型工法の紹介、水面利用のルール化について意見交換を行った。
第7回 (第33回)	平成20年 10月24日	江東区役所防災センター	水面利用（見沼通船堀の事例紹介）、埋立てられた河川と撤去された橋のモニュメント、河川清掃等のボランティア活動について意見交換を行った。
第8回 (第34回)	平成21年 1月30日	江戸川区小松川さくらホール	第5期 江東内部河川流域連絡会で話題となったことについて意見交換を行った。

流域連絡会の今後の予定

次年度からは第6期の流域連絡会となります。募集は区報等で行う予定です。第6期第1回目の開催は夏以降となると思います。

江東内部河川流域連絡会・委員名簿

		住 所 ・ 団 体 名	氏 名
都 民 委 員	個 人	墨田区	梅原 博明
		墨田区	ふたき 二木 祥一
		墨田区（区内在勤）	正岡 久武
		江東区	菊地 進一
		江東区	黒木 正幸
		江東区	ひみ 氷見 修三
		江東区	吉田 正子
		江戸川区	山内 久二
	団 体	江東区 江東区和船友の会 （同 同 ）	三好 寿雄 （松島 信治郎）
		江戸川区 旧中川灯籠流し実行委員会	江頭 正恭
江戸川区 小松川平井地区連合町会		谷川 貞夫	
		所 属 ・ 職 名	氏 名
行 政 委 員	墨田区都市整備部道路公園課長	斎藤 雄吉	
	江東区土木部水辺と緑の課長	荒木 猛男	
	江戸川区土木部計画課長	立原 直正	
	東京都環境局自然環境部水環境課長	仁科 彰則	
	東京都下水道局建設部土木設計課長	猪八重 勇	
	東京都下水道局東部下水道事務所ポンプ施設課長	菱谷 和信	
	財団法人 東京都公園協会水辺事業課長	東山 正行	
	東京都建設局河川部副参事（河川管理制度担当）	植村 敦子	
	東京都建設局河川部計画課長	長島 修一	
	東京都建設局第五建設事務所管理課長	青木 正	
東京都建設局江東治水事務所内部河川工事課長	西村 行正◎		
東京都建設局江東治水事務所水門管理課長	佐々木 晶		

◎ 座長

連絡先：江東内部河川流域連絡会事務局（東京都江東治水事務所内部河川工事課内）

担当：吉岡、林

TEL：03-3692-4945（直通） FAX 03-3696-6499

Email-address：S0200225@section.metro.tokyo.jp